

少ない鳥類

■カモ類は七北田川へ

蒲生干潟では、冬になるとカモの仲間やサギ、ウ、ウミネコ、ユリカモメ等様々な鳥類が観察できた。しかし、今回蒲生干潟で観察したのはハマシギ (Fig.1) と数羽のカモの仲間、ダイサギぐらいであった。

蒲生干潟周辺に鳥類が飛来していないわけではない。Fig.2～5は蒲生干潟から七北田川を4.5kmほどさかのぼった所、福田大橋から梅田川との合流点付近である。数多くのオナガガモを始め、様々な鳥類が観察できた。梅田川との合流点では、鳥類が人に近寄ってくる姿が見られ、餌を与えている人の存在が考えられる。しかし、それだけが原因で蒲生干潟に鳥類が飛来しないとは考えにくい。蒲生干潟付近では堤防工事が終盤を迎えている。重機の移動や工事の音に怯えて近づかない可能性や、干潟の餌の不足などが考えられる。堤防工事は今年の3月で終わる予定である。工事終了後、蒲生干潟に多くの鳥類が戻るのか、目を向けていきたい。



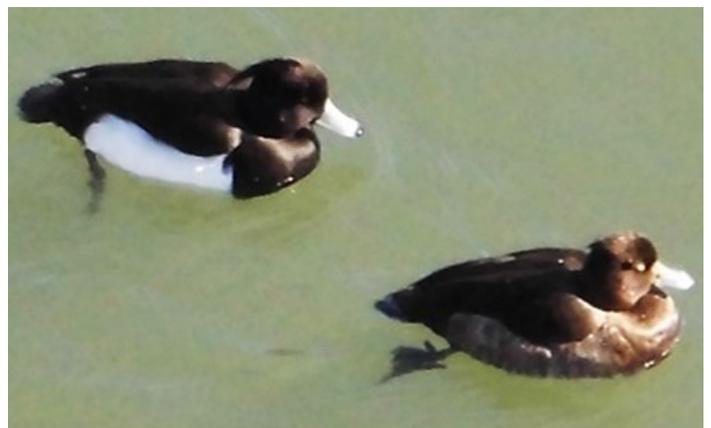
(Fig.1 ハマシギ 蒲生干潟)



(Fig.2 オナガガモを中心とした混群 七北田川)



(Fig.3 オオバン 七北田川)



(Fig.5 キンクロハジロ 七北田川)

白黒が雄、褐色が雌
 よく似たスズガモとは頭部に冠羽があることで区別される。



(Fig.4 ホシハジロ 七北田川)